

#9:2013

男声合唱プロジェクトYARO会の歴史

男声合唱プロジェクトYARO会 22年の歴史

2013/11/28

■YARO会の親分、埼玉県合唱連盟顧問・元理事長
小高秀一先生ご逝去



平成25年(2013)11月28日、埼玉県合唱連盟顧問・元理事長小高秀一先生が旅立たれました。

小高先生は、埼玉大学教育学部音楽科を卒業し、教職に携わるかたわら、学生や一般合唱団の指導を長きにわたって続けてこられました。埼玉県立川越高校音楽部を全日本合唱コンクール全国大会・NHK合唱コンクール全国大会において銀賞に、混声合唱団川越牧声会を全日本合唱コンクール全国大会において銀賞に導く、という実績を残しています。

指導されていた合唱団のなかで唯一の男声合唱団であるイル・カンパニーレは、男声合唱プロジェクトYARO会でも中心的な存在となっています。そして2011年、YARO会メンバーからなるVive la Compagnieヴィヴ・ラ・コンパニーを全日本合唱コンクール関東大会(※)銀賞へと導くなど埼玉の男声合唱興隆に多大の貢献をされました。

葬儀は、穏やかな冬の日差しのもと、多くの合唱や学校関係者が参列するなか、しめやかに執り行われました。先生は生前、冗談めかして、「オレが死んだらオマエたち歌を歌ってくれよな」と漏らしておられました。YARO会メンバーからは小高親分と慕われ、如何にしてメンバーの力を最大限引き出し、良い演奏へ繋げるかに苦心されていました。

ともすれば高い音が苦しくてファルセットで凌ごうとするときには「逃げるナ！」の一喝、まずはしっかり発声をしろとお叱りでした。もちろん実声で出せても音楽的でない声はだめに決まっています。その兼ね合いが難しい。厳しさの中にも「いいか、頑張れよ！」と、どこか包み込むような優しさに鍛えて頂きました。

告別式では、先生を偲んで男声合唱曲、多田武彦作曲『雨』、磯部俣作曲『遙かな友に』を歌いながらお別れを告げました。



2002年、埼玉県の男声合唱5団体で立ち上げた“男声合唱プロジェクトYARO会”のファーストコンサート、合同演奏曲、多田武彦作曲『富士山』の指揮は一も二もなく小高先生にお願いしました。



小高先生、安らかに休息ください。ありがとうございました。

男声合唱プロジェクトYARO会・ホームページ

http://www.ric.hi-ho.ne.jp/neo-rkato/yaro/yarokai_top.html

2025年10月13日

男声合唱プロジェクトYARO会 加藤良一